

下垣内和人

電話の六三三二七一九四五番

737



文政十丁亥年

歳旦

827-3

俳諧資料カード	
年代	文政十丁
編者(筆者)	下垣内和人
書名	歳旦
備考	...

若水やはや新後る山の歌良 玄性  
 木く山やまのたれおくもまじの美 自樂  
 美山もや神のちんもたれ ちんき 赤月  
 ちんけ盤ニ宝ニ一知も月 凡路  
 うらふのうけはふたやまをま 一章改 芳乃右  
 いつる声てはあはれはつ鳥 六石

(下垣内 読)

寺よりよきもらひんや雑煮美<sup>九</sup>の  
 杉物乃香さかももももくく歌うたは香か香か  
 大ぬくや世よの世よここふふ松まつの香か子こ  
 籠かご位ゐのたたくくやや松まつの香か文ぶん衣え  
 んんかかたたるるかかももまま 11 中ちゆう女にょ  
 前まへの負おてああるる歌うた白しろ山やま 12 疎そ歌か  
 麩ほ斗と目め急いてて膳ぜん居いるるやや初はつ鳥と 13 菜さい長ちやう  
 二親にせんとの笑わら歌うたたたららやや初はつ日ひ歌うた 14 松まつ月つき

旅りゆううう鳥とりやや初はつ日ひの毛け白しろ山やま  
 松まつ子この廟みやう招まねくくはは松まつやや南みなみ 16 小泉こゝろの  
 たたぐぐやや交まじるるはは花はなの香か 17 六日むいっぴち市いち  
 蓮れん菜さいやや児このこけけ積たねね 18 糸いと菜さい  
 何なにんんももきき同どうととままりり花はなのの香か 19 六むいっ柳りゆうお  
 曉あけののねねひひくくやや茶ちや葉え 20 松まつ松まつ  
 元もと日ひれれ元もと子こららぬぬるるものものがが 21 春はる身み  
 小こめめたたややままおおふふららるるははははのの元もと 22 後ご月つき

美筆の袖よりは守や相影に 河  
一歩の沖のほとけ 初鳥 24 鳥栖  
かげよの宝つとや福茶を梨香  
抱く子よ列はの神や花のほろ香  
二親の指並へるあはれの表 21 清信  
くまのよふくまのわのちれの表 28 延史

表

歌の戸や孫の目とめて初子礼 29 表白  
夕暮や田原よりきく塚の松 30 外  
吹けのる風よりたふそを推し 31 月窓  
初午や木陰子すれを後行 32 月  
けつ午や火燭おけり 畠ん 33 清嵐

正月八日あり

揺ゆり 若菜やくさしよきり木 34 栢桐

一泊瓶鳥の水くむ柳丸子百峰

第一の山ややあのり菴の松36麦緑

漢もの塩り中りや柳37五蒼

ちり法し母をしめの心 齋38高宇

飼猫れ玉よりりる尾尾桂39蕙令

七子りたまをたるりる水40橋居

やりまや流をかる山形橋41化石

之日月の付ふかまや風の糸42号水

百ふさらやあの年の月 43 顔宇

けもや淮のあの山橋44号江

雛柳やその花あの湖45月

ま子り啖はる猫れはけり山 46 把翠

橋名て人たる山小尾山 47 棠陵

及山師とてり柳を心なる 48 延史

りるしる

拾ふ水を井ハ月にある 49 在居

扇玉里のりて竹やぶ50表石

酒桶とちふ門51胡蝶52花53雲54燕55

亭56庭57人58信59中60野61月62寫63亭64

斗65その66窓67の68ま69や70書71の72表73、

存74居75も76ん77の78か79ま80は81く82れ83、84枕85石86

菜87の88ま89あ90や91牛92あ93の94破95の96夕97吹98り99、100鼎101湖102

花103の104ま105は106つ107り108あ109る110ま111あ112る113ま114、115田116浦117自118桂119

河120ま121ま122ゆ123る124た125た126や127溪128の129名130、131東132岸133比134白135

而136敏137系138ま139え140や141柳142の143地144ま145く146、147羅148友149

ま150ま151ま152ま153ま154ま155ま156ま157ま158ま159ま160ま161ま162ま163ま164ま165ま166ま167ま168ま169ま170ま171ま172ま173ま174ま175ま176ま177ま178ま179ま180ま181ま182ま183ま184ま185ま186ま187ま188ま189ま190ま191ま192ま193ま194ま195ま196ま197ま198ま199ま200ま201ま202ま203ま204ま205ま206ま207ま208ま209ま210ま211ま212ま213ま214ま215ま216ま217ま218ま219ま220ま221ま222ま223ま224ま225ま226ま227ま228ま229ま230ま231ま232ま233ま234ま235ま236ま237ま238ま239ま240ま241ま242ま243ま244ま245ま246ま247ま248ま249ま250ま251ま252ま253ま254ま255ま256ま257ま258ま259ま260ま261ま262ま263ま264ま265ま266ま267ま268ま269ま270ま271ま272ま273ま274ま275ま276ま277ま278ま279ま280ま281ま282ま283ま284ま285ま286ま287ま288ま289ま290ま291ま292ま293ま294ま295ま296ま297ま298ま299ま300ま301ま302ま303ま304ま305ま306ま307ま308ま309ま310ま311ま312ま313ま314ま315ま316ま317ま318ま319ま320ま321ま322ま323ま324ま325ま326ま327ま328ま329ま330ま331ま332ま333ま334ま335ま336ま337ま338ま339ま340ま341ま342ま343ま344ま345ま346ま347ま348ま349ま350ま351ま352ま353ま354ま355ま356ま357ま358ま359ま360ま361ま362ま363ま364ま365ま366ま367ま368ま369ま370ま371ま372ま373ま374ま375ま376ま377ま378ま379ま380ま381ま382ま383ま384ま385ま386ま387ま388ま389ま390ま391ま392ま393ま394ま395ま396ま397ま398ま399ま400ま401ま402ま403ま404ま405ま406ま407ま408ま409ま410ま411ま412ま413ま414ま415ま416ま417ま418ま419ま420ま421ま422ま423ま424ま425ま426ま427ま428ま429ま430ま431ま432ま433ま434ま435ま436ま437ま438ま439ま440ま441ま442ま443ま444ま445ま446ま447ま448ま449ま450ま451ま452ま453ま454ま455ま456ま457ま458ま459ま460ま461ま462ま463ま464ま465ま466ま467ま468ま469ま470ま471ま472ま473ま474ま475ま476ま477ま478ま479ま480ま481ま482ま483ま484ま485ま486ま487ま488ま489ま490ま491ま492ま493ま494ま495ま496ま497ま498ま499ま500ま501ま502ま503ま504ま505ま506ま507ま508ま509ま510ま511ま512ま513ま514ま515ま516ま517ま518ま519ま520ま521ま522ま523ま524ま525ま526ま527ま528ま529ま530ま531ま532ま533ま534ま535ま536ま537ま538ま539ま540ま541ま542ま543ま544ま545ま546ま547ま548ま549ま550ま551ま552ま553ま554ま555ま556ま557ま558ま559ま560ま561ま562ま563ま564ま565ま566ま567ま568ま569ま570ま571ま572ま573ま574ま575ま576ま577ま578ま579ま580ま581ま582ま583ま584ま585ま586ま587ま588ま589ま590ま591ま592ま593ま594ま595ま596ま597ま598ま599ま600ま601ま602ま603ま604ま605ま606ま607ま608ま609ま610ま611ま612ま613ま614ま615ま616ま617ま618ま619ま620ま621ま622ま623ま624ま625ま626ま627ま628ま629ま630ま631ま632ま633ま634ま635ま636ま637ま638ま639ま640ま641ま642ま643ま644ま645ま646ま647ま648ま649ま650ま651ま652ま653ま654ま655ま656ま657ま658ま659ま660ま661ま662ま663ま664ま665ま666ま667ま668ま669ま670ま671ま672ま673ま674ま675ま676ま677ま678ま679ま680ま681ま682ま683ま684ま685ま686ま687ま688ま689ま690ま691ま692ま693ま694ま695ま696ま697ま698ま699ま700ま701ま702ま703ま704ま705ま706ま707ま708ま709ま710ま711ま712ま713ま714ま715ま716ま717ま718ま719ま720ま721ま722ま723ま724ま725ま726ま727ま728ま729ま730ま731ま732ま733ま734ま735ま736ま737ま738ま739ま740ま741ま742ま743ま744ま745ま746ま747ま748ま749ま750ま751ま752ま753ま754ま755ま756ま757ま758ま759ま760ま761ま762ま763ま764ま765ま766ま767ま768ま769ま770ま771ま772ま773ま774ま775ま776ま777ま778ま779ま780ま781ま782ま783ま784ま785ま786ま787ま788ま789ま790ま791ま792ま793ま794ま795ま796ま797ま798ま799ま800ま801ま802ま803ま804ま805ま806ま807ま808ま809ま810ま811ま812ま813ま814ま815ま816ま817ま818ま819ま820ま821ま822ま823ま824ま825ま826ま827ま828ま829ま830ま831ま832ま833ま834ま835ま836ま837ま838ま839ま840ま841ま842ま843ま844ま845ま846ま847ま848ま849ま850ま851ま852ま853ま854ま855ま856ま857ま858ま859ま860ま861ま862ま863ま864ま865ま866ま867ま868ま869ま870ま871ま872ま873ま874ま875ま876ま877ま878ま879ま880ま881ま882ま883ま884ま885ま886ま887ま888ま889ま890ま891ま892ま893ま894ま895ま896ま897ま898ま899ま900ま901ま902ま903ま904ま905ま906ま907ま908ま909ま910ま911ま912ま913ま914ま915ま916ま917ま918ま919ま920ま921ま922ま923ま924ま925ま926ま927ま928ま929ま930ま931ま932ま933ま934ま935ま936ま937ま938ま939ま940ま941ま942ま943ま944ま945ま946ま947ま948ま949ま950ま951ま952ま953ま954ま955ま956ま957ま958ま959ま960ま961ま962ま963ま964ま965ま966ま967ま968ま969ま970ま971ま972ま973ま974ま975ま976ま977ま978ま979ま980ま981ま982ま983ま984ま985ま986ま987ま988ま989ま990ま991ま992ま993ま994ま995ま996ま997ま998ま999ま1000

月1中2折3て4饅5頭6入7ん8理9ぬ10、11徳12一

一13石14の15字16や17菴18れ19初20は21く22く23、24東25里26

標27し28も29折30ひ31ま32ゆ33や34沈35路36、37山38、39金40格41

三42層43の44し45ま46あ47れ48あ49り50中51の52石53、54白55市56、57石58

あしひく

杉59志60を61班62り63、64石65、66白67



茶の屋敷も由縁のあまを梅意の多る史  
 干菜節一伝小折のまゝと今わを伝水  
 咲こそ小晴く思ふ桂り南小泉の  
 杖より一瞬をん花の中花乃好季城  
 春あまやひよりあつてもいの夜84尔鳩  
 藤田村をこして咲かあ葦子僧里崔  
 大吹林こわい月猫の思ひ86東湖  
 白雲一て松凡字を文桂87岩文

今芳なるもあけひを崔88山  
 雀のちけくう雀む金崎89和を  
 野もも美くかしてまのあけ90東湖  
 やひののふるもあつ桜91梨名  
 志る美やまきくもすれいえ92羅十  
 山原のあかやあつて竿の93梅亭  
 菖の美を死94素報  
 又え和やまきくれの少板橋95芝風

岩はふや眼ハ襟れもよふる 96 延史  
 子のたふ砂のまらふき柳は 97 柳亭  
 毛果たや又入るるえし夢の舞 98 舞に  
 牝の尾も唱つていはふ 99 菜粥 三良坂 妻志菜  
 雪北何れくしはよみ 100 李長  
 野の水乃踏存をよる柳は 101 野 耻去  
 啼出てる陸や小田の水より 102 の笑  
 江よりよ子の居並ひて菜摘は 103 尾乃 席を

鼻息乃るや 余意の人毎ち 104 柳溪  
 連翹やふれと風の吹も 105 白介  
 猪サ精を橋の外より 106 玉相  
 影月や菜を摘人の笑ひ声 107 松丸  
 表へゆく陸へ橋たし 108 系水  
 雪をたちやてほらして 109 山 八波 芹翁  
 妻の雪つき 110 雨 田之方 川  
 柳くや植り 111 盗き 甲山 蕉 舟

松風を脊中子受て揺る菜の四木  
 標きれ隙のねりもつむむか菜の  
 歌名子青のふちをさし雀の  
 堂子子まみもも流るあり  
 蕨わてつ瓜りの是若菜の  
 傘子振る一もありあのむ  
 七ふん木一ふんあはく桂の  
 雪ふて碎と碎りや春の雪  
 岩子

木や子のこもねあん春の初直水  
 長也や野守の家のくし  
 あひの所は川に吹ぬき雀の  
 ち砂のねをけえも川多  
 けきののたも移るや  
 梢やけ咲れし  
 堂や山は住はれたも  
 子ももホもあて

うらなまの かしら 三日月 小泉女 128 柳脚  
 花を 日や 四つ山 129 柳 129 柳  
 大空も 浅黄 130 蝶 扇 130  
 や 文や 村一番の子 分限者 131 魚流  
 三日月を 抱て 物のほり 132 花 132  
 川を 佳や 摩耶 133 石 133  
 柳あり たち 134 途才 連 134 石  
 ち 135 李 泊 135

雙

卯のはふや 誰 136 花 136 水 136  
 池 137 柳 137 文 137 柳 137  
 まつ 菊や 四糸の 花 138 月 138 夜 138 楳 138 笑 138  
 かの 月 竹 139 遠 139 入 139 住 139 延 139 史 139  
 草 140 山 140 や 140 花 140 芳 140 右 140  
 水 141 の 柳 141 花 141 芳 141 石 141 左 141  
 夏 142 花 142 芳 142 石 142 左 142

申かゝ子のほもあて若楓 143 風亭  
 袖く付く山門くはそ 144 葉後  
 庭外の親よりはやきそ若子 145 江丸  
 人のうらやみ小尺心さやまのね 146 麦塚  
 子乙女やまのまもも宝もの 147 其相し  
 五月雨や新つえ実て一棟入 148 梧末  
 ともなひ答せむいづち木の葉 149 土蒼  
 下しはや浅瀬く編る樹くの影 150 橋こ

灌佛や世の夢を吹散あし 151 赤月  
 深山えくわしありくあはれ 152 蘆亭 中の村  
 不待てはる志まうけさりく子 153 素石 玉里  
 かししはほまのあしし牡丹 154 柳枝  
 お苗の香移る世下の標 155 南魯 白市  
 郊のまもや赤人町の小袖 156 全格 兼若後  
 下園とありやまのまをみ 157 柳席 小倉水女  
 花相やお日のあまの向 158 五由 中の村

高きや取の雪の雪と道ニハコト 159 東米

後山やすする雪たふす府侯田の元 160 北麟

しろかりの柳のはやち田植立 161 瓦路

柳の葉さむしあつし門の口 162 斗水

木もさむし柳ひさのまき 163 乙彦

撞つきまじりや清水をふまゆ 164 雪庭

るのねれ窓しりけく雪た 165 茶亭

雪のふりや足よこゆるし 166 紅葉

雪のふりや足よこゆるし 166 紅葉

もみくや方もかくきくあ夏月 167 夢外

雪のふりや足よこゆるし 168 返止

雪のふりや足よこゆるし 169 白峰

雪のふりや足よこゆるし 170 月窓

雪のふりや足よこゆるし 171 雪山

雪のふりや足よこゆるし 172 雄

雪のふりや足よこゆるし 173 内

雪のふりや足よこゆるし 174 石山

河津の光り水はあひせし角 北口 津西

野宮のまき木若花の馬の鈴16通五

宇治川はさきし青の竜た 女 和石

あはしの家まき木とて花は 188 石

水は後のまき木とて花は 189 梨木

むらぬ浅緑のまき木 180 東湖

花まき木とて花は 181

花まき木とて花は 182 尾

まき木とて花は 183 延史

あまき木とて花は 184 柳溪

いづれはまき木とて

まき木とて花は 185 佳昌

まき木とて花は 186 井眉

まき木とて花は 187 月底

まき木とて花は 188 序風

まき木とて花は 189 若

異しき日を一入ふもいかに多し 入野 190 子續

雄ぶも見て居るはし も 是れ也 191 故 赤

木々の背へ川すりてりあや交れ 192 社 古

枝りあぐる亀ハ子もろゑ友も立 193 丸 の

うゑてのてたけ 野あち田一石 194 士 有

松々葉の煙り 柳の葉もあはれ 195 舞 路

ゆゑお乃そしとむやく 水も流 196 桂 山

うゑていふも星もく 牛の腰 197 年 吟

鶴釣を屋を川人の弟也 甲山 198 蕉 舟

系宿れ馬子喰 柳の葉もあはれ や 199 芥 翁

白木の葉をてりや竹生もあはれ 津口 200 巴 陵

舟の舟もよ力のつゝや 影もあはれ 可 201 橋 守

いばりいばり 門の田舎もあはれ 可 202 葉 山

小女郎の笑顔を踏ふ 縁もあはれ 可 203 礎

一羽ても声 鶺鴒 可 204 藍 胆

ま直り嘆て居るも 芥子もあはれ 可 205 露 叶



七夕や故をこゝ書あるとの様だん 221 五月

たよりとあはれは情なかり五月 222

るまは折見れどもあり萩のこゝ 223 鳥部

人あしとてりしなやせめて 224 白峰

四赤山とてりしなやせめて 225 古魯

禪僧の行跡おとし袖味つれ 226 蘆花

菊のたぐ流を炙のいほと 227 麦飯

寔先の味とあやめりしなやせめて 228 額字

琵琶力具て法師の言や秋の音 229 樂居

やと修や様をのりていふくはる 230 松緑

えり代や十日のきくのせりもせん 231 葉陵

乳房もも付て飲まんこもし 232 化石

抱あけていふねもたの萩の萩 233 湖月

夫の子を心あそむるやも 234 厚天

相一葉の庭もあはれよ 235 蝶

不危の言もあはれや 236 巻

けこねちや催きぬしの高たかきあな 251 芙蓉

やんき北声やひかり秋のやそんくあひと 238 小石

ナホ夜や飯く船のきふがこもの山 239 東米

善さし門回かの野の羽はくさ 240 羅維友

糸合の船ははしももの常じょう 241 ヶ

せらつとあももとと巡めぐりりおお撲ぶれれ 242 白山

丁ちやうああららののととままるるいいももああらら 243 石崖

ささ境さかいのの障さうりりすすみみくくももいいははのの心こころ 244 芦角

おおののちちやや若わかひひままををるる權ごん存ぞんのの水みづ 245 田流

ききののここやや権ごんのの界がいももかかるる友ともんん 246 草亭

其その中なかににささややももささのの音ね 247 素石

もものの思おもひひししららままででるるやや相あい一いつ系けい 248 虎石

又また人ひとのの夢ゆめをを門かどににくくおおききももいい 249 香檳

いいふふららふふみみ新あらたににててええるる柳やなぎ舟ふね 250 弱里

ののそそれれ月つきををててハハ家かのの音ねももととすす 251 白桂

芥かひのの田たへへ流りゅうととささああききのの音ね 252 草削

いづ里の三浦の草をて樹の氷白市 253 南魯

新おき意一 只るを在形為然 254 凡 跋

あり作ふ秋のまややその如 255 一 白

あさやうし夜をいしよとむ十一年女 256 はるまき

ふれの香眼おけりまの清水集女 257 子 葉

用をいあさうらまはやけか月 258 和 字

七々

はひつ甲の木布おりみ危 259 妻 臺

悲きつ子を視てあさうり星糸 260 草 外

あつたやまきうきつげね髪髪の髪 261 五 才

ゆ〜秋のえんやまや草の孤松 262 香 向 宇

志〜秋のほろやまもたれ 263 自 樂

香かろやまゝ垣根の掃く陳 264 草 右

いふつらよ押まてわらわら小枝尾乃女 265 凡 如 名

秋〜らやわさよの舟の影 266 水 三 示 示 尾

窮〜やんあやまきれ秋 267 也 葉

いつまでも笑て所なき野まきくた<sup>せの</sup> 女  
枝も樹も羽折しなむ秋の風、正樂  
よはふとて、扇も扇の木のまは、樓境  
笑ふも自ひかきりきくのま、峰女  
月流のほよほん橋のま<sup>河内</sup> 淇江  
名月やんのはし、まき<sup>のま</sup> 其蔭  
流るる、漸ふもふ多う、天の川、る川  
塊、柳や親の声、すまふ、風、栖

もさきく、うつやまきの青、石、九、あ  
きく、や、時、の、声、北、九月、そ、白、糸  
二、月、の、て、り、も、徳、藪、の、幸、と、糸、り  
新、糸、や、陶、目、ま、ま、の、ま、北、日、桂、扇  
矢、一、の、師、的、師、て、り、ま、北、史  
影、ま、ま、ま、ま、り、水、て、る、る、山、路、に、<sup>女</sup> 和、石  
花、ま、ま、ま、ま、や、垣、根、を、ま、ま、無、の、風、ま、ま、  
麦、飯、の、ま、ま、味、ま、ま、ま、ま、秋、路、角

るのそとけきるる菊の白（李）花新

踏く花折、扱少く言の糸（り）始立

菊のきりし木寄、辰や后月（石）書君

いふつらやふききり合とまなす（糸）物栞室

わし連のよ向、巾袖はほろ（入野）世乎古

萩の原さとり知てわら（289）盤た、子續

歌うふや化務の水乃あて笑（290）湖古

空衣のたふし笑やま（291）の毛、北直

ものしらふや（292）あまらるる草山子山、管里

七夕や祝の何とちりて星（293）其石

鳥は、一羽雛はくふり月（294）散髪

歌きりやたし、一ふゆの川（295）伊ひ、栞系

いふつらや整ふて扱（296）こと似牛、亭古

り船をききりて啼（297）も夜の暮、里水

ゆき妙や横火のふききり（298）松う糸、湖古

草うりや小娘の髪（299）は松系をらる、社古

舟からも折てあるやまきのこ 久井 300 文淵

しるつり終 昔々月のま 301 嶺山

前へてきあつて 洞子くつれり 石見之内 302 嶺 栗

水瓶を蓋のうらみく 303 杖 淵

松尾の別まきあり 杖の尾 304 虎 松

松川やかんば 305 松 松

吹きて月をすさる 306 松 尾

きくまのころあや人の 307 虎 窟

日ち何よ入とんえ 308 標 眉

小海尾のあまて折 309 野 淵 流

野のまも川北へ 310 花

あまを 311 井

心ゆ 312 耳

籠 北日本 313 系 英

秋 314 壺

秋 315

冬

松月とていふは夏多や梅子梅 316 梅峒

おまてやいさあや梅子梅 317 延史

鴨水や夢は余屋あられ 318 碧尾

わこの火はあやうき子 319 赤月

樽とてや村のまもの念仏 320 化石

定あまこころふ一時小春 321 九の

子とてホウ汗かく歌や香か 322 西宇

大空やぬらうく曲窓の下く 323 把翠子

後の子とていさあや子 324 麦緑

冬かれやいさあや 325 蹴十

茶のまや石摺ま 326 物皮

志くはくや野守の窓の片あり 327 凡路

あゝねてあゝ風守るや 328 秋印

中啟の上へ 329 素圭

おぼろや二つの子る白の 330 芝菜

戯り維く簀 其の 尚氣の 331 兼笠  
 其の意するも 是れ 其の 332 映月  
 是れ 尚氣の 尚氣の 表の 婦の 333 東哲  
 たつ 尚氣の 尚氣の 川の 尚氣の 334 里秋  
 和の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 335 柳新  
 其の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 336 困秀  
 尚氣の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 337 第字  
 尚氣の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 338 茂女

楮乃 尖一 毎の 339 其の 石  
 其の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 340 別高  
 冬川 や 尚氣の 尚氣の 尚氣の 341 第外  
 其の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 342 雀煙  
 夕日 尚氣の 尚氣の 尚氣の 343 四木  
 其の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 344 勿免  
 三 尚氣の 尚氣の 尚氣の 345 玉相  
 尚氣の 尚氣の 尚氣の 尚氣の 346 月窓



居眠のこゝろかたや炭のうき 363 斗高  
 対宴や幸小きけとも松のす 364 法尻  
 舟川の端しわさむの歌のよ 365 江丸  
 粥すしを顔えまきさ、巧婦を 366 石  
 子さぬくぬのこころを月のせし 367 芳右  
 心算の無や言さのち河原 368 柳淡  
 莖葉の門とをて

葉のはねや海をこころ川人難 369 高宇

お文をや舌踏 先志者はより 370 延史  
 米賣賞子谷くとりたり 371 春香  
 宮の物嘆は後河白ひより 372 楳笑  
 ともなや所切てある書あより 373 圭  
 けり時相海や磁石の針の先 374 比白  
 函ある見れ後ひや海 375 一  
 摺神のさるおま入てせらる系 376 東米  
 海よりも餅よあめり冬まの目 377 一

子さるゝ、別子鷗の月夜に 西條 采羅

ふるかゝや海ふるかゝる 百見之上 森俊

音ほそりの夜きり イヨ同子 や川をき 木市

夕暮や沖り 久井 善の帆の光 文例

葉外子 揚子 の沖 ちみちや冬操 桃泉

あふけし老の姿や冬月、 淡子

いろしの料理 ユ 又や冬暮、 白月

冬にもり 舞 又 イ くもる 境に、 善山

やう寺の佛の孫も 彦 彦 彦 彦、 采冠

杜の根は 忍 忍 忍 忍、 笈雄

松月の暮も 彦 彦 彦 彦、 一彼

水きれ 花 花 花 花、 鳳味

冬り 水 水 水 水、 少風

きく 花 花 花 花、 栞屋

切 花 花 花 花、 白 白山

撞 花 花 花 花、 松 松

風也鳥乃舞ふふらう橋北白布 399壺

巾のきねとかりくきくおおん395

投ふく位より樽のく繋る思流398

大空や靴換あて知るる397其川

あかしの吹や淡きこの松一本398翔二

きつてく作の火差の臧おん399車笠

酪乃一日くみるる何物400漁竿

月とひのくね振ん401葎倉石

笠ほしのきをこれてはつ時病402和道

飯汁や鳥の声の耳はたぐ403白鷗

志くおや美濃ときいの陰404輕美

り所のうけのきかき路巾405みよ女

おをよとして居る歌や初所406喜唄

糸窓よりぬるはきく者407傘三

赤松のうけあむ歌や厚氷408甘古

お踏く遥お下るやつ409は赤磨

杉木と境み澤やけつ山 410 桂山

鼻息のこもるやきお小傘 411 佳又 クウハシ

炉窓や世間をこよ一世常 412 田影

茶もや休きある水車 413

やまをけり入るや陣老の目 414 空庭

舟馬子兜ころつおや 415 系水

糸係と十おつあや 416 止

妻とこころんす 417 史

一頌百韻

418 延史

物くや机かえ一娘の供

子白此道のの慮き 419 諸鼠

妻の飛翅を得る 420 梅畑

酒酌らりもはやき 421 蘆河

柳木の上を延友 422 右

おき 423 市 424 月窓



妻をく二王の歌よ笑をもち 98 願堂

志くほらかきり 世の原ふ 99 志路宿

まじりのあまら 蒼る坊主 100 法徳

像くわらるるよの歌立 101 芝倉

何より七日の降りよみ 102 舟高

縁袖をとどれらゆき 103 西守

つらき声のあまの声の 104 合士

歌記をよする 105 八日 東栄

伊山く 竹屋たをてつ 106 石丸

さきくまを紀伊の関札 107 碧尾

あまののそし 108 南たあちて 109 文衣

あまの 110 貝の 111 虎の 112 自樂

あまの 113 月の 114 延を 115 川 116 瓦路

脊く 117 けの 118 女 119 美 120 倉 121 蒼

屋く 122 柳 123 窓 124 乃 125 透 126 柳 127 溪

車 128 の 129 き 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

子とわぬわぬと嫁のち谷菜 451 一 意 子

此のまじも情あるさは橋二 457

春のあはれに恥ぬき草 458 自余

時しうらるる冬 459 映月

百人のまこととま 460 意草

みふし 461 化石

柳 462 石

八日の月 463 松丸

丁 464 妻主

矢先 465 草

あ 466 四木

467 野川

468 困意

469 葉後

470 江丸

471 霍居

仁木子のハ勝軍のをゆり 492 妻白

何のこころの門の車戸 473 九の

髪揃くさむし 474 寂く 潦 白山

思ひくげゆく 475 愛人子 蓮 石 崖

少月ゆく 476 杉の木 流の 岸 月 夜 桂 山

船かゝ 477 ねむ 状の 西 社 湖 月

田玉 478 路を ぎぬ くの ちき ちき ちき ちき 麦 塚

ちひ 479 乃 ぎ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 其 川

狼の飼 480 あり 小 ちよ 小 様 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

そ 481 は え の き し ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

ニウ 482 一 休 了 した 志 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

ちよ 483 居の 袖 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

ちよ 484 久し ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

山 485 の 葉 の 木 子 凡 の 橋 音 沙 白

ちよ 486 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

歌 487 の 花 の 口 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

積て魚俵のち行ふ傍り 888 舞路

踏し芙蓉をむねのまはし 889 松井

芙蓉の唐き座敷も月の影 890 李洞

んやきあふあ女の月 891 中女

釣竿のたもくちあし松の音 892 樺眉

火入おぼやふらん多乳 893 漁竿

むのたえるものみまふも音あり 894 鞆二

まし花の音よ濁りまへ 895 車笠

草 くらんしが月をまむ 896 舟のしらと 柳

延るうらうらき道よ 897 俣 妻身

巻あけてるはたかふる 898 麓 藤彦

若る麦の給はよまのつら 899 五 方

栝の歯もたぬはうりの契 900 一 河

恋しつと字をとんえてむ 901 月 衣

七ありるる根の水よまぬくれ 902 ろく

雀又くはりりもほなき 903 月 風 栖

きんしき 509 傘くまの鼓鉦 509 尻夕

袖とりけりてける 505 土の 505 京水

杖箱お上と包し 506 あまの紙 506 思流

内玄園のぬれ 507 止 507 子り

夕月よ子履も 508 扱て立 508 壺 508

石の 509 方 509 一 509 び 509 酒 509 の 509 罍 509 白 509 路 509 松

<sup>十ウ</sup> 杖の中 510 其の中 510 も 510 留 510 たのめ 芙蓉 510

又つき 511 ころ 511 は 511 る 511 牛 511 馬 511 の 511 尾 511 牛 511 吟 511

橋く 512 え 512 て 512 ハ 512 監 512 所 512 犯 512 の 512 銀 512 香 512 壺

並 513 して 513 居 513 る 513 起 513 し 513 乃 513 歌 513 泉 513 水

い 514 つ 514 も 514 ち 514 も 514 ま 514 副 514 寺 514 の 514 嘆 514 拂 514 一 514 白

木 515 履 515 女 515 を 515 括 515 り 515 日 515 中 515 費 515 り 515 芳 515 水

娘 516 や 516 る 516 こ 516 と 516 も 516 花 516 を 516 殖 516 嗣 516 去 516 陸

恒 517 こ 517 し 517 め 517 える 517 海 517 山 517 の 517 表 517 枕 517 茶

住居ありて家のほくや文夜 <sup>518</sup> 月窓

新茶のそとりの晴の影 <sup>519</sup> 諸岩

子をほつるゝまねく <sup>520</sup> 史

河川を <sup>521</sup> 史

笙の音 <sup>522</sup> 史

子孫 <sup>523</sup> 史

綾巻 <sup>524</sup> 窓

<sup>525</sup> 窓

<sup>526</sup> 史

<sup>527</sup> 窓

<sup>528</sup> 窓

柳 <sup>529</sup> 史

<sup>530</sup> 窓

<sup>531</sup> 窓

于わたりし相油をなほ意

焚きし桐を切たし

鈴の音を今宵のちかおし

秋のちかおし

時  
日の影の所を

美を

わ

おし

532 史  
533 窓  
534 窓  
535 史  
536 窓  
537 窓  
538 史  
539 窓

冬の内大船を

目鏡

石葛

か

車

儀の子

中

史

540 窓  
541 史  
542 窓  
543 窓  
544 史  
545 窓  
546 窓  
547 史

ナウ

右秦ふふ多利急の生着

548 窓

とて格と付し 鳥の島

549 窓

花の陰水と温さぬ示少し

550 史

扇もとりはり厚みあつた

551 窓

貝島の月は吹風きもさ

552 窓

さしとみえる黄の葉は

553 窓

554 石

浪のりや四枚乃あよの捨輝

菱の浪をこ代 堰水 555 月

杉陰に牧場の鳥はすき帰て 556 麦畑

とて押きて積ふ日おろつ 557 初稔香

柿下を板定の月北層解つ 558 二榎

碓の音おとちきりあき 559 山

あふあふの宴よの納る所なりハ 560 自樂

猫塗されて祖母の嘆息 561 湖月

お月りけきしも恨の云ふつま 562 化石

又と袖を吹くなり 563 四木

よもこけ態野系と教ふ 564 延史

煤ぬく一皮汁の煮溢れ 565 石

紅の月暮るのたけそ 566 赤月

今も 567 麦歌

むつの一と 568 梨老

揺られ 569 二櫻

起外も花の 570 鳥山

571 自樂

初 572 湖月

力 573 化石

大船の 574 四木

河 575 延史

化の言もゆるきも振く後石

三月 雁もあはぬ後石

札記る香取り 鉢置る高花

大根はより 魁る山さ

殺の朱一昨年ものへ代て賣

若も中川馬の眠る影下

あね状も又おけらるる解

影石も飲 影のや

ナウ  
うしと成音 般き 秋更

平野 彦の摸合 傘はり

はすれも身の色も 脊ふの 兜

池乃泉 鴨ハ何もあはる

指先了 移る 影も

並みし 袖とく 梅香

三九

つらつら

つらつらのるる

590 文衣

子子猿味のしちやまの月

ついでにさむらひの秋の松風 591 露宿

か鳥の群あつたはるその露をて 592 延史

子牛一人のこの夜 593 夜

水桶の原をりわをみ川後 594 宿

ついでに抱く下座のまら会 595 史

つらつら 596 衣

真一かかぬ山の落平 597 宿

鳥は一羽を中しきふ 598 史

一夜をて拾ふ瓦器 599 衣

組乃平子われ 600 宿

葉 601 史

入月のほろ 602 衣

小舟を流り秋涼風 603 宿



とら月と世のそわしとあぢしん者月

一丁のやうりて溪の源心 619 白月

山陰一ハ朝物の色とるを 620 柳泉

地震のあしれりお共て 621 延史

何代ももつ侍とる程権 622 柳園

はつ 623 湯ありの湯 623 松月

谷 624 のお 624 花 624 のお 624 ま 624 白月

伊 625 は 625 り 625 と 625 し 625 る 625 ぬ 625 り 625 の 625 土 625 高月

二の年

晩翠軒とて

626 延史

山 627 々 627 く 627 ち 627 む 627 ち 627 流 627 ぐ 627 二 627 日 627 月

ね 628 ま 628 の 628 備 628 小 628 秋 628 の 628 知 628 風 628 柳園

ま 629 り 629 の 629 流 629 の 629 躰 629 ね 629 の 629 庭 629 忍 629 て 629 松 629 月

杖 630 変 630 て 630 三 630 州 630 人 630 の 630 三 630 竹 630 一 630 白 630 月

傘 631 身 631 ち 631 む 631 物 631 を 631 ち 631 ち 631 柳園

竹 632 の 632 身 632 ち 632 む 632 物 632 を 632 ち 632 ち 632 延史

ウ  
妻の如く又驚くもあき 632 柳泉

いさき並つて松をまつむ 633 松月

西をれし陽をさくさくし 634 白月

笛の音のさけすえり 635 柳泉

新しき風をのそむれ礼に 636 延史

松を指し明やした月 637 柳泉

夕陽しころりたむの香の玉 638 松月

639 白月  
破賣をゆよ人をけしん

氏神一七日糸れハ一日方日 640 柳泉

ふの嗜し秋夜に嘯り 641 延史

菅笠のこころしむる古みやう 642 柳泉

雲の井から夕まを催さく 643 松月

一の井之吐 644 換子

色うねねを吹きまの夜 645

石のねねをけしむるあまの 645 柳泉

曙の月よほき毛の弱啼く 646 虎 花

巾着の下に花をきりもをり 647 子

ちとの内ほききひしも押し子 648 刺

をしゆもあしも晴るもあ 649 花

う  
あやのほるうかきりああ 650 子

情棟するも恋のまきり花よ 651 刺

よわをひしけりるあのは先あき 652 花

ちし(あは)よりききもあし 653 子

垣端をちきりするも巧婦き 654 刺

居り仕事きりさるる所あ 655 花

あねの透るする月の影をさる 656 子

引板もあきねあきあき細 657 刺

浪人の扇も持秋のくれ 658 花

格子つくりの門の影は 659 子

ち挿り及て居りしあきの聲 660 刺

口あやう居る樹はまきり 661 花

の平

百韻世り

662 柳泉

たのやふふ二夜十日や田代

月信くさぬる月を卯丁 663 白月

東国の國を川をわさ秋のまき 664 浪子

くさかや一暮のそも宿屋 665 虎松

夕時と追々漂ふ船を入 666 梅雲

あつれのきと止口をいへる 667 柳劇

たのまき抱きあひるきこころ 668 松月

山えるあは窓のそひはき 669 李山

けしきあひさひるあまのやれ 670 露井

足踏のきも疑ひのうら 671 直水

しつやれ木の下に居つる月 672 高月

硯のあひく所る松のま 673 松泉

少月一暮も芥も吹ち 674 少月

子降一清き月のえん 675 藍祖

けいこを織あひしうまきくまで 676 葉山

かしらよき 677 磁

子よホウ折木橋を追ひ 678 一律

徳子のあそび付 679 岩子

けいこはよき 680 延史

杉かき 681 桃泉

賣子おん道のまひのあし 682 白月

一桶 683 孩子

夢人 684 桃泉

垣の小竹をいつた 685 柳雲

曙のやまのふ 686 柳劇

帆あそびのふたつ 687 虎花

糸をくされ 688 赤川

うらりま 689 葉山

おやちを伴 690 柳劇

暑はのこり 691 一律

つた方の月もさへ酒酌して 692 虎花

もくは往てさる草下の葉の露の白月 693

ひつしと板の小橋をさうやちち 694 柳泉

くさあしと網糸をく探 695 柳泉

昔の舟の情もさね魚のほき 696 延史

思ふよとハ誰う付し名を 697 淡子

此の舟は奈良の雲影し傘をか 698 柳泉

葉ひし松の口をさきあふ 699 柳泉

つたさてもひし光るを燈籠 700 藁山

思ひしよゆかさるし 701 水尾

生て居る魚を霧のよもさ 702 桃劇

舟のをさるあしよのやちち 703 柳泉

ねくあめしとるれ涼しはよ 704 虎花

をさちしとあさみしおの月 705 柳泉

柳花あさし伏の巻も片後 706 淡子

流りやとひのあはれをさる 707 延史

茶を飲し清子よきなる能き又 118 柳泉

くまへえより溪の如言 718 白月

こぼれと餅とを池に飼 719 水に

えをわけてこそきり 711 一待

細<sup>三千</sup>くものも休する癖とあり 712 花松

まじりやてきり行もさか 713 狭子

朽と木の恒にわらる音の園 714 虎松

伯父の徳もりのせをきけ 715 柳泉

金鳥舞の守を川に批す 715 白月

幽しきわらへばさか 717 露月

おれ上さるやけくおあり 718 高朱

まのち捨ぬをきく 719 風味

ゆいおてさかをばはるあり 720 狭子

まのちのたをのたをを掃 721 柳泉

ぬれく送てられき 722 風味

うけも月の面をりあり 723 柳泉

くさくさいふ花をよむはさきもあけり 729 柳泉

わししつ何のしん 725 白日

病つよきあしおぼゆるをさき 726 柳泉

子鞋のぬれまねるつれあは 727 高月

化人のそのあしをす 728 高月

おの洞しきまを仕入る 729 柳泉

よの山にねと松の立片あり 730 柳泉

雪ししあふる西力大粒 731 風味

今し川の舟のそ敷し 732 換子

実解りしき酒杯のま 733 露朱

友をよみ今もあしあぬ月 734 柳泉

小豆の上し響ちかく 735 柳泉

あしあけぬし 736 風味

ふ薬の司れかたの 737 蓋理

あしあけぬし 738 換子

やぬきあけぬし 739 柳泉

陽明のそとれぬるる 秋の先 740 風味

浪のちゆらぐ 小社 741 露月

草の乳をこして 742 換子

ふらふらむ馬の鈴 743 露味

糸ねむる時 744 白月

はなより火所よき 745 柳樹

黄連を實えりまし 746 水色

砂粒の塵と拾 747 一律

七浦の人を立派に 748 直水

あまのつらき 749 藍理

村ゆれやうて 750 高木

山鳥の声 751 柳屋

二階のけしき 752 換子

草の穂並の度 753 白月

あつたより 754 風味

市のはら 755 水色

新くまき流しをききしむる水加梅里

川水のうらみはたのしみし何處月

一鳥一音をききしけりけりありて

親子はふしの睦むたそく水

不しのむらさきのむらさきも笑ふ

妻の白のむらさきも笑ふ

762 雑外

生柴のうらみありていづれも

色し入るはの黄氏の月

第のたやうな木の秋文て

筆の目を照らす松尾の栞

かきまきくはたの扇のひら

洛外もやもほき水加

767 史  
766 外  
765 史  
764 外

苟且のそよの暮しをすま

268 史

夕日よあけく曉のたき物

269 外

斬の馬をいばめさるる声

270 史

今も思ひのおな梅木

271 外

七五三の腐ぼりりの爰をえ

272 史

車の水よそく釣竿

273 外

八月に入をふらさきりれあり

274 史

尾上の芒をさくう張

275 外

美のぬきあるまはむくそを

276 史

是乃把満を笑ふ山崎

277 外

やとり捌く五器七器もむの

278 史

旭うけつゝ白小雛の音

279 外

お日すらもさむげりやを伝ふ

280 外

あしし風をあし

281 羅十

小庭より後、御中引きて梅亭

鹽よりこれなまぬ毛むし<sup>183</sup>庭史

河ぬれ下る流む夕月お

桂の音よ車もたはり

い中けよ清くきひき大入を

むりよはる浦島くそは

たふちり西を厚くは並立て

孫のまじりて盡ふりま

はちとそハそふきんぬら程居

情を結よ春白のつゆ<sup>191</sup>史

まらる流の袖を吹てり

またくすこや鱈むし<sup>193</sup>江

船魂の徳物をひくふあかり

ちふふいと操子日窓日<sup>195</sup>亭

大勢の人カうしむのたま

まかたふりて書くわさる<sup>197</sup>十

797 796 795 794 793 792 791 790

梅亭<sup>182</sup>

庭史<sup>183</sup>

十<sup>184</sup>

江<sup>185</sup>

史<sup>186</sup>

亭<sup>187</sup>

江<sup>188</sup>

十<sup>189</sup>

亭<sup>190</sup>

史<sup>191</sup>

十<sup>192</sup>

江<sup>193</sup>

史<sup>194</sup>

亭<sup>195</sup>

江<sup>196</sup>

十<sup>197</sup>

挾仙齋夜座

798 子行

すつるむうしをりやはら時物

炭の白しし草のみのま

799 年吟

鉄山の信も末を種文てヒ立辰

山嶺境の杭さきしヒ李唐

行わまても月夜鳥の写送 800 命月

あししヒ碓きこゆる 803 朔二

いと森かこむヒ押切やきりて 804 漁竿

是もねらりヒ後多とれ石 805 九の

芥火の消ていもゆるヒ燭ヒはよ車 806 笠

ふそそヒ恨のゆるヒ歌ヒ 807 章鳥

唾きりヒ一袂の底とひるかヒ 808 吹

純波のうけれ移るゆれヒ 809 椽化石

善樂をヒ調子ヒの月の流ヒ 810 其玉

とととヒ一ヒ毎もヒあヒぬヒ 811 延史

菱喰し交てける後観

糸一とける状の延川

ふの目し書をいふまじのそら

雛のひあつはくく野たひ

きき<sup>十子</sup>何あきけてうり舟

ききふ入一あれカク

きひはく大あきあつあう

借おししとあり杖の差

812 吟

813 行

814 鳥

815 泉

816 竿

817 四

818 木

819 二

梅子に催す思ふや礼多後

平河と利を何うとて

いつとも山とあふ麗な掃きて

まゝ領ふはとれも技持とり

えきとれぬ花次の子を履の砂をはね

又さうりやまねのなごき

かえとも茶碗の水は月の片

丁あぬとちの杖し用おき

820 吟

821 石

822 辰

823 竿

824 二

825 鳥

826 泉

827 四

五

十  
桐<sup>ウ</sup>の葉ハ世ニ傳<sup>ツ</sup>テ久<sup>ク</sup>シク

桐玉

秘<sup>ヒ</sup>のけし<sup>シ</sup>のけし<sup>シ</sup>のけし<sup>シ</sup>のけし<sup>シ</sup>

吹

と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>又<sup>マ</sup>振<sup>ル</sup>し<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>又<sup>マ</sup>振<sup>ル</sup>

石

ま<sup>マ</sup>のり<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>のり<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>のり<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>のり<sup>リ</sup>

竿

一<sup>ヒト</sup>座<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>

史

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>

史

877  
史

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup> <sup>875</sup>梅<sup>ウメ</sup>洞<sup>ドウ</sup>

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup> <sup>876</sup>史<sup>シ</sup>

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup> <sup>877</sup>洞<sup>ドウ</sup>

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup> <sup>878</sup>史<sup>シ</sup>

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup> <sup>879</sup>洞<sup>ドウ</sup>

う  
毛入丸は拓きあけし迷惑は

田上りつづつ棚ハ五日の暮

り解きかけりきてを嫁入る

何と疑ふ黄昏の暮

松の蔭に埋る山乃るも水神

瀧の音も流石暑き日

琴月おきてやしし積とれ海あり

笠負子の下はわづらひ疾抱

890 史

891 洞

892 史

893 洞

894 史

895 洞

896 史

897 洞

細糸糸のきつよわね 妻

昔生きあはる花の曙

入深の月影ほくさむし

名を鞠のうまふんゆるあはる

898 史

899 洞

850 史

851 洞

御摺物師

板木細工后印

銅印木口彫刻

涉糸肉墨肉色挿肉色之法座也

廣島研屋町 坂田保兵衛



五十七